

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3170201028
法人名	社会福祉法人こうほうえん
事業所名	グループホーム よねはら
訪問調査日	平成 19年 9月 5日
評価確定日	平成 19年 9月 20日
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉経営ネットワーク

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3170201028
法人名	社会福祉法人 こうほうえん
事業所名	グループホーム よねはら
所在地	鳥取県米子市米原8-5-77 (電話) 0859-33-1337

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉経営ネットワーク		
所在地	東京都千代田区九段北4-1-9市ヶ谷MSビル4F		
訪問調査日	平成19年9月5日	評価確定日	平成19年9月20日

【情報提供票より】(平成19年8月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年	4月	1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	8 人	常勤	8 人, 非常勤	0 人, 常勤換算

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3 階建ての 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	19,500円+電気代実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,100 円		

(4) 利用者の概要(8月 31日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	70 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中村医院 九里クリニック 小川歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人の理念や基本方針をエレベーターフロアに掲げ、グループホームの理念や今年度のスローガンを目指して取り組んでいる。鳥取県の象徴である大山を目の前に捉えられ、併設のデイサービスの2階に位置している。事業所内には観葉植物や花、民芸風の趣のある飾り物が豊富で、日当たりや風通しの良い環境にある。道路から玄関が奥まっておき、利用者や家族の日々の出入りにはエレベーターを使用している。利用者の外出が簡単にはしにくい状況にある。一方、家族の来訪は多く、利用者も明るくストレートに意見の表明をしており、その人らしく生活できるよう支援している。地域との協力にも努力が為されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>「廊下手すりの設置」⇒改善なし。 「車いすのホームへの出入りの改善」⇒1階のデイサービスの通路の利用により、やや改善された。 「食堂の日付の表示が小さい」⇒改善され見やすくなった。 「利用者の出来ることはやってもらうように」⇒職員の努力で少しずつ改善しつつある。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員が自己評価表について会合を持ち、話し合いと個人検討を行い、それを持ち寄って話し合う勉強を進めた(5回程度の会合)。その内容を日常の活動に活かすように努力している。全体的な視野で、介護の進め方が判断できるようになってきている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>今年度は運営推進会議は1回しか開催されていない。施設側からは入居者の状況とサービス提供の状況を説明し、問題点なども報告している。他の参加者から、高齢者福祉の制度の動向や行政の動き、地域包括センターの状況が話される。また、自治会・ボランティア代表・利用者・家族代表の参加者から要望などが出される。また、認知症予防教室の開催広報がなされた。今後は、一部の委員が参加できなくても、予定を決めて開催することが検討されている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会は設置していないが、日々の面会時に家族の要望や苦情は口頭で聞き取る事ができ、信頼関係は高いと言える。さらに、月1回法人の広報誌や毎月の預かり金の明細と共に「利用者さんの近況のお知らせ」を送付して、家族とのつながりが持っている。ただし、重要事項説明書には苦情解決第三者委員を記載しているが、掲示物にも詳細を明示されたい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入して、地域行事や一斉清掃などに参加しつつある。デイセンターと共催の「夕涼み会」は玄関前駐車場で行われた。高校生の荒神神楽や「がいな太鼓子供連」、安来節、模擬店、カラオケなど近隣の住民や家族の交流が盛んであった。また、ホームの前が小学生の通学路であるので、登下校の見守りたすきをかけた利用者が見守りをしている。危険防止に協力すると共に、高齢者と小学生の交流の発展に期待できると思われる。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念、基本方針、スローガンが玄関・エレベータホールや食堂に掲示されている。又、地域密着型サービス向けの『介護10則』と当ホーム職員で作った『独自の理念』が職員事務所や食堂入り口に掲示されている。見るところに介護に関する心構えが示され、常に意識するようになっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員ミーティングで毎回原則に立ち戻るようにしており、利用者の状況に適切に対応している。管理者が可能な限り、日勤の配置にすることが、職員の意識への影響が大きい。	○	グループホームの特有の理念が明示されているが、家庭の暮らしと連続した設営がなされているが、現在では、家庭においても高齢者の重度化に対応しバリアフリーが普通になりつつある。グループホームにおいても入り口の段差をなくし、居室廊下の手すりを設置するべきである。職員の利用者への配慮は重要であるが、将来の事故防止への対策も講じられたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域活動に参加できるようになった。夕涼み会には、近隣の高校からボランティアとしての参加があり、模擬店などにも地域の住人が多数参加している。	○	施設前の道路が、小学生の通学路になっており、9月から登下校見守りタスキを利用者が付けて見守っている。高齢者と児童の交流に期待が出来る。また、職員の地域に対する積極的なアプローチにも期待している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、日頃のケアや活動の反省を行った。細かい日常業務だけでなく、ホーム全体をみてアクションを取れる視点が広まることで、将来のホームの利用者サービスへの好影響が見通せるものである。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催が、中々日程の都合がつかず開催は、今年度1回だけである。利用者の状況やサービスの状況を紹介するほか、参加委員から多方面の情報もたらされ、将来の見通しが可能となるものである。	○	地域密着型のサービス事業所として、この運営推進会議は必要なものである。可能な手順を踏んで予定の日程で委員会開催を進められたい。事前の資料などを参加予定者に配布するなど準備が必要となろう。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在はあまり交流が進められていない。	○	管理者が積極的に市役所あるいは地域包括センターなどに接触を取り、地域につながる情報の入手などに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月担当職員が家族宛に「お便り」を書き利用者の近況を報告している。これは広報誌や、預り金の明細書などと共に郵送されている。家族のホーム訪問時にはいろいろの報告を行っている。又、体調の変化などが見られるときは、家族に電話で連絡することも多い。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や行事のときなどに、個別に要望や不満・苦情などを聞き取っているが、家族同士の話し合いの場は設定されていない。	○	家族会はまだ発足の機運が無いが、行事のときに職員と家族の話し合いの会を企画することが望ましいと思われる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職や異動があり、利用者への影響が危惧されたが、他に職員の支援や、管理者の配慮でうまく対応できたと判断できる。来訪する家族に必ず紹介し、職場になじめるようにしている。	○	職員の疲労やストレスを軽減するため、日常の管理者の職員との対話や相談、あるいは職員同士の親睦会合などが必要である。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の計画された研修に参加することはもとより、外部の研修(自主研修)の認知症研究会。勉強会などがあり、このホームの専門的な研修として最適であり可能な限り参加させている。その成果を内部へ発表会・勉強会を行うようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的な勉強会として行なわれる、「グループホームの管理者のステップアップ委員会」に参加し情報交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	先ずは、利用希望の人の自宅を訪問し、自宅の状態や本人・家族の意向や趣味などを把握する。その次に、家族と利用希望者本人に施設に来訪して、施設の現状を見て理解してもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が人生の大先輩であるとの考えを職員が持ち、季節の行事や調理法や地域の慣習などを教えてもらうようにしている。また、職員の悩みを聞いてもらうなどに役割も受けてもらうこともあるようである。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の面接は利用者宅に往訪しており、自宅での状況や住み方を確認している。また、日々の声掛けや面会家族から、今までのエピソードなどを聴取する事で利用者の思いや意向を確認している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族、それぞれの面会や訪問によりその折々の話を踏まえて、日々のかかわりの中から、その人らしい暮らしができるような介護計画を、解りやすい書式の生活支援計画表により作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、モニタリングを実施しており、計画の遂行状況や効果を評価し、利用者の状況把握の上心配なことをピックアップするなど、見直しが必要な項目の検討を行っている。家族からの意向は面会時や電話で確認しており、その上で介護計画の見直しを行っている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期的ではないが、訪問看護ステーションと契約を交わして日々の支援の中で相談事やカンファレンスなどともに、医療機関に出向く前の処置などを頼むこともある。相互の良好な関係を持つ事で、看取りに対しての強力な力となっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望によって入所前からのかかりつけ医の継続が多く、定期的な受診には家族が同行している。また、その時々々の状況により往診が可能な主治医への変更にも協力医院を紹介している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の重度化に向けた取り組みとして、住み替えや終末期のあり方についてカンファレンスを行っており、看取りケア計画書の作成もしている。契約を交わしている訪問看護ステーションと連携しながら、一人の看取りを行った。	○	今後さらに看取り計画を進めるためにも、利用者本人の意向や家族からも支援方法などの確認や同意を得る事が期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄介助の際にも時間を見計らいながら、声を掛けたり部屋へ誘ったりしており、利用者の尊厳を損なう事のないように、管理者が日々確認を行っている。さらに、掃除などで居室への出入りの際にはノックや声掛けの徹底とともに、居室の鍵を使用する利用者へも見守りの中で気持ちを尊重している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の気持ちを最優先に考え、希望に添って支援している。散歩や買い物などにも職員の体制や車の手配により、柔軟な対応ができるよう心がけている。美容院にはなじみの店も出来、職員の送迎だけで対応可能なところや、散歩の際に立ち寄りお茶の振る舞いを受けたり世間話をするなど良い関係が出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の嗜好を盛り込み、料理の本なども活用して1週間ごとに立てている。昼食の準備や片付けにも利用者も一緒に行っており、得意料理や調理法などにも積極的にかかわってもらうなど、そこでの大事な住人であることを意識付けている。	○	現在、夕食は半調理のものなどを同法人、他施設の調理場から運んでいる。以前実施していた、利用者と共に夕食の献立を考えたり買い物に出かけるなどの再開を考えており、食事を楽しみなものにするためにもおおいに期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に添って、入浴日や時間を確認しており、概ね午後3時半頃から6時頃までに実施している。また、夜間に入浴を希望する利用者にも対応しており、入浴拒否の際にも時間を見計らい、職員を変えて声掛けしている。さらに、入浴しない日には清拭や足浴などにより清潔を保ち浮腫みの軽減に繋がっている。	○	浴室は広く取られているが改修により足元が不安定な場所もある。さらに、利用者の身体状況によって、福祉用具の適切な利用により、安全、安心の確保と共に、職員の負担軽減に繋がる事と思われる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者それぞれの知識や生活歴を活かして干し柿やちまき、おせち料理、ぼた餅作りなどを行い、楽しみながら利用者の意欲向上を図っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に添って、長寿を祝う会での食事や季節の花を見に行ったり、利用者全員での外出や外食は年間を通じて実施している。	○	今の状態では、すぐに利用者一人ひとりの希望に添えないこともあるので、前もって日を決め、個々人に合わせた外出の支援を期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	デイサービスの2階に位置する事業所のため、デイサービスの職員が不在の際には1階玄関内の扉の施錠を実施しているが、それ以外は開けている。また、2階のエレベーター前にセンサーによるチャイムを設置して来客や利用者の出入りの確認を行っているが、リビングと離れている事もあり、必ずしも活用されているとは言いがたい。	○	事業所のハード面での制約はあるものの、認知症利用者の徘徊などへの配慮や安全を考え、センサーなどの適切な利用など、工夫されたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署の協力を得て避難訓練を行っている。同施設内のデイサービスと協同して、消火器の使用方法や避難経路などを、職員が一人になる夜間を想定して実施している。また、職員は救急救命講習に毎年参加しており、市の協力施設になっている。	○	事業所の性質上、常に災害に対する危機感を持ち、独自での避難訓練の回数を増やすとともに、全利用者に必要な備蓄品を備えることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量チェック表に毎日の水分量や食事の摂取量を記録し確認している。さらに、毎週献立表を同法人の特養の管理栄養士に見てもらっており、塩分や栄養面の確認指導を受けている。	○	水分量チェック表によるとほとんどの利用者の水分量が不足している。積極的に摂取しない利用者に対しても色々な工夫により、健康に反しない水分確保が望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下が広く取られ、リビングルームと食堂を分けて生活の区切りをつけている。台所には配膳台を設け、利用者も一緒に食事の支度をするのが容易にできる配慮がある。	○	1階玄関の段差や生活フロアの手すりの設置がされていない。今後ますます重度化に向かう利用者の安全とともに、残存機能を活かすためにも、バリアフリーへの改修や、手すりの設置を考えられたい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所に際して、家庭で使用していた家具などを持ってきてもらい、配置なども考慮して自宅に近い状況を維持し、極力環境変化が少ないよう支援している。また、家族の写真などを手元に飾る事で安心感に繋がっている。	○	それぞれの居室内に置かれている家具や調度品の耐震補強が必要と思われる。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームよねはら
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	鳥取県米子市米原8-5-77
記入者名 (管理者)	小谷 知江美
記入日	平成 19 年 8 月 29 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当ホーム独自の理念を、職員の話し合いの中でつくり掲げている。地域の方との交流を軸に楽しみのある生活を目指している。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時には当ホームが大切にしている入居者と向き合う時の心構えを伝え理解してもらっている。基本的介護姿勢として介護10原則を掲げ日々のミーティング、月のミーティングで理念を掘り下げて話し合いを行っている。	○ DCM法での指標、良い状態の時、良くない状態の時を日々の暮らしの中で見つけ記録に残しケアプランに反映させる。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域のイベントへの参加、自治会の清掃活動への参加を実践している。「よねはら便り」という広報誌を作成し自治会の回覧板の中に入れて頂き地域の方にホームの実践を伝えるようにしている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所に行きつけの美容室があり散歩途中にお茶に誘ってくださり立ち寄りさせていただくこともある。	○ 自治会の会合へ参加する。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所が開催する夕涼み会へ、近隣の高校からボランティアとして参加してもらっている。地域の方へも広報し参加していただいている。地域の公民館のサークルへ不定期ではあるが参加している。	○ 小学生の下校時の見守りを、学校よりタスキを借りて実施する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症に関する地域の相談窓口として、福米地域包括支援センターが作成したちらしに載せてもらっている。公民館であった、認知症予防教室のお手伝いをさせていただいた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、日頃のケア、活動の振り返りを行った。昨年の改善事項に対して取り組んだ成果についても話し合い、今後の課題について共有出来た。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の結果を報告し意見を頂いている。	○	よねはらには3階に自由空間があり、そこを地域の方へ開放し趣味の会の開催場所として提供するなど広報していく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	推進会議への参加を1回だけしていただいたが、相互の交流が行えていない実情がある。	○	課題解決の折に、相談させていただく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	理解を深めるため資料の配布をしている。	○	研修会があった時には、職員の参加を促したい。月のミーティング時に勉強会を行いたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人主催の研修会へ参加している。	○	高齢者虐待防止法に関する勉強会を月のミーティング時に行う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に基づき、説明を行い理解が得られたときに署名にて同意を得ている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人内に『ふれあいの橋の会』という第三者の会があり不定期ではあるが訪問していただいている。日常的に職員は一人ひとりの入居者の思いを察する努力をしてお手をとめて話を聴くことを優先している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月担当職員はお便りを書き近況を報告している。ご家族の訪問時最近のエピソード等お話している。健康状態については何か変化があった時電話にて相談している。	○ 健康状態の内容として、体重、食事量、水分量等具体的な数字に即した状態の報告をする。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個々には不満、苦情を言っているが、ご家族相互の話し合いの場が設けられない。	○ 家族会は発足していないが、行事の折に職員と家族の話し合いの会をホーム側が企画し実施する。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が、ローテーションに入っているため機会は設けていないが日常的に話をすることが多い。	○ 職員が話しやすいように、声を掛け聞き出すように努める。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者がシフトに入っているため、急な休みが生じた場合等に無理のある勤務となることが多い。1階デイサービス職員に応援を依頼することもある。	○ 事業所内で対応出来ないときエリア内の施設へ応援を依頼する。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職、異動により入れ替わりもあったが、残った職員が新しい職員が早く馴染めるよう配慮している。ご家族の訪問の際には紹介している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修への参加は計画的に行っている。(認知症ケア研修、看取りケア研修など)。法人外の研修は掲示し参加を促している。	○	研修報告を月のミーティングで行い研修内容を共有する。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの管理者のステップアップ委員会があり情報交換を行っている。	○	近隣のグループホームとの交流を管理者間では行いたいと話しているが実行に移していく。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人内のグループホームでレクレーションを通しての親睦会を開催している。休憩場所はある。	○	休憩が取れるよう職員同士で声を掛け合っていく。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	月1回理事長の訪問がある。人事考課の面接時各自の思いを把握するよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	共に過ごす時間を多くし、話を聴く時間をつくっている。トイレのサイン等を見逃さないよう職員間での情報共有を毎日の申し送り時行っている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前に自宅へ面談に言った際にこれまでの苦勞など聴き今後何を求めておられるか理解するように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、他の事業所のサービス利用も検討しても良い場合橋渡しを行う。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前にご家族、本人に訪問していただいている。1階デイサービスを利用していた方の入居の場合、デイのスタッフが頻りに2階グループホームにきて話をしてくれている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩であるという考えを職員が共有しており、例えば季節の行事など利用者から教えて貰えるよう場面づくりに工夫している。(干し柿づくり、ちまきなど)		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の訪問時に日頃の様子をお話し以前の生活の中でのその人らしい生活ぶりを伺い今の生活に生かせるよう話し合う。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出へご家族への参加を募ったりホームの行事にご本人の馴染みの親戚、近隣の方の参加の声を掛けている。日常の写真を撮り、個々のアルバムに整理している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	息子様の月命日を覚えておられる方がおられ、一緒に行っている。又ご家族だけでは帰宅が困難な方は職員も付き添っている。	○	より詳しい生活暦が、本人、ご家族より聞きだせるよう努める。お茶の時間を有効に使い一緒にお茶を飲みながらより長く話を聴く。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係性、日常のトラブルについて職員は情報交換している。趣味活動、トランプなどゲームを通して交流の場を設ける。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p> <p>サービス利用が終了しても、移られた先へ会いに行っている。ご家族が遊びに来られたこともある。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p> <p>日々の関わりの中で声を掛け把握に努めている。身体状況に心配がある場合ご家族と必要であれば主治医、訪問看護の看護師にも参加してもらいカンファレンスの場を設けている。</p>		
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p> <p>本人自身から、家族、知人から訪問時に少しづつ聞き取り把握に努めている。</p>		
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p> <p>利用者 一人ひとりの生活リズムを理解し起床の時間、食事の量、好き嫌いなど本人の思い希望に添うよう努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p> <p>職員間の情報交換、ご本人、家族からの思いや意見を聞きその人らしい暮らしが継続できるような介護計画を立てている。</p>		
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p> <p>月1回のモニタリングにより遂行状況、効果を評価し見直し時期の検討を行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録以外に、食事、水分量、排泄状況の記録、職員間の申し送りノートを通して情報の共有に努めている。申し送りノートには確認のサインを入れることを義務付けている。個人記録には、本人の言葉を記述するよう努め介護計画の見直し、評価に繋げている。		
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問看護ステーションと契約を交わし医療連携加算の指定を受けている。	○	重度化した場合の終末期の希望を、ご家族に確認しながら看取りケアも視野に入れた支援をしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	公民館活動へ参加している。	○	地域の方へボランティアの募集を事業所だよりの中で広報していく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	自治会主催の運動会、祭りへの参加をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議へ地域包括支援センターの職員の参加もあり情報交換が出来協力関係が築けている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を入居後も希望されることが多く基本的には家族同行の受診となっている。不可能なときには職員が代行するようしており利用契約時に同意を得ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居前から専門医に掛かっておられる方は継続して掛かっていただき、専門医の診察が必要と思われる方には、地域の中で信頼できる医師を紹介させていただいている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションとの契約に基づき日頃の健康管理、医療面での相談、助言、対応を行ってもらっている。気軽に相談が出来る関係が出来ている。ご家族とのカンファレンスにも出席してもらっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、介護連絡表にて医療機関に支援情報を提供している。頻繁に職員が見舞うようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応について、住み替えの検討、終末期のあり方について早い段階でカンファレンスを行いご家族の意向を確認している。カンファレンスには、訪問看護スタッフにも参加していただいている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人、ご家族の気持ちを大切に利用者安心して終末期を過ごせるよう取り組んでいる。在宅医療中心の24時間体制の医療機関とも密に連携を図り対応している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	暮らしやケアの継続が保たれるようケアプランや支援状況を手渡し、情報交換を行い、馴染みの職員が機会を作って訪問に行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	プライバシーの確保について、排泄ケア、口腔ケアの声掛けが他の利用者、ご家族に聞こえ尊厳を損なうことになっていないか、日々の関わりのなかで管理者がいつも確認している。	○ 職員間でも声の大きさ、トーンについてお互い注意しあう。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	朝食時、パンかご飯かの選択、飲み物はコーヒー、牛乳、何がいいか。朝今日着る服の選択。等など常に意向を聞きながら生活の支援をしている。	○ 更衣の介助に抵抗される方に対して立腹されることが多く服の選択の声掛けをしていなかったが今後は選んでいただけるよう声掛けをする。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の気持ちを最優先し今したいこと、例えば散歩、美容室に行く、買い物など柔軟に対応している。	○ お茶を一緒にのみながら等ゆったりした関わりの中でいま何がしたいのか思いを引き出す。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	起床時の整容では、鏡を見ながら髪を梳く、口紅を塗るなど女性ならではの身だしなみに気をつけていただけるよう関わっている。近所に行きつけの美容室があり個々に選んでカット、パーマ、毛染めに行っておられる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食時は準備から片付けまで、一緒に行っている。食事をしながら旬の食材、料理法等の会話も楽しめるよう職員は食べる配置も考慮している。	○ 料理の本等を活用し利用者と一緒に日々の献立を立てることに取り組みたい。以前実施していた2,3人の利用者で買い物に出掛けその日の夕食を考え食事を楽しみなものにする為の取り組みを再開する。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個人のおやつ、家族、知人が持ってこられた物を状況をみながら食べていただいている。	○ お預かりした物については、冷蔵庫の扉にボードを貼り賞味期限、数を記載しチェックしているが今後も継続して行う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	リハビリパンツの使用で入居された方もトイレ案内がスムーズにいくようになり布のパンツになったり、パットの使用のみになっている。	○	和式トイレの習慣の方がおられ和式タイプのポータブルトイレの使用を検討したい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方的に決めず、利用者のその日希望を確認し入っただけで入浴している。足浴なども浮腫みの軽減のために実施している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの体調、希望を考慮し休息をとって頂いている。休息をとる場所も居間のソファへベッドを利用したり居室へ案内したり本人に確認しながら支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節感を感じていただくためにも、昔取った杵柄と経験や知恵が発揮していただける、干し柿作り、ちまき作り、おせち料理、ぼた餅作りなど作る楽しみ、食べる楽しみに繋がるようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時財布を持っていただき、レジでの支払いをして貰っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間を通して、外出、外食は全員で出掛ける計画として実施しているが、日常的な個々の希望にあわせた外出が出来ていない。	○	個々の希望を聞きだし一人ひとりの希望に添った買い物、外食、外出を実施していく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かける機会をつくり、支援している	本人が行きたいと思っておられる遠くの場所への外出は勤務を調整し計画を立て行っていただいている。ご家族へも本人の気持ちを伝え協力を依頼している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居間に設置している電話で、ご家族へ、知人への電話をしていただいている。時間帯、回数には配慮し声を掛けている。	○	年賀状、暑中見舞いなどの頼りを、本人から家族宛に出していただくよう支援する。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族の都合のいい時間帯に来ていただけるよう配慮している。利用者と一緒に茶饮んでくつろいでいただけるよう場所の工夫等している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対しては、正しく理解し拘束の事実はないが、言葉の抑制になるような、待ってください。などの声掛けはまだある。	○	言葉の抑制に対しての勉強会を行い、職員間の意識づけを行う。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2階にあるグループホームのため、1階デイサービスの不在時には防犯の面での注意が必要であり、職員が独りになる時間帯はグループホーム玄関の中の扉に施錠をしているが、日中はオープンにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に、利用者が見守りやすい位置にいて利用者の状況を把握している。職員間での声掛けを行いお互いの所在を明らかにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	漂白剤等の洗剤、包丁など目に触れないところへ保管したり、裁縫道具は使用時に注意をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のひやりはつとを記録に残し、職員の共有意識を図っている。今後の予防策について速やかに検討し職員間で周知している。ご家族への説明、報告は細やかに行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に1回エリア内で行われる救急法の勉強会に参加している。	○	緊急時の対応に対しての勉強会の実施を行う。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し年2回利用者とともに避難訓練を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	近況の報告の中で、転倒など起こりうるリスクについてもご家族に説明し理解していただいている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の様子を職員は把握し共有しており、少しでも変化が見られたときには、主治医へ相談し受診、往診へつなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の綴りを作成し職員が内容を把握できるようにしている。服薬介助はISOのマニュアルに基づいて行いチェック表にサインをいれている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分量、運動量に配慮し自然排便が出来るよう取り組んでいる。食べ物にも配慮し、食物繊維の多い食材やヨーグルト等の乳製品を取り入れている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の声掛けを行い、力に応じた声掛け介助を行っている。義歯の洗浄も個々の力に応じた介助をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量をチェック表に記録し職員が情報を共有している。定期的に管理栄養士のアドバイスをもらっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対してのISOのマニュアルがあり予防、対策に努めている。ノロウイルス対策としてペーパータオルの使用、1日1回の手摺り等の消毒を実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきんは毎晩漂白している。冷蔵庫内の掃除、食材の鮮度の確認を頻回に行っている。買い物は毎日出掛けしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	親しみやすい雰囲気作りのために、花壇をつくり、案内板も手作りのものを掲げている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を利用者に生けてもらったり、家庭的な雰囲気となるように心がけている。ベランダでプランターに四季の花を植えたり野菜づくりをしたりと配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	エレベーター前の空間にテーブルと椅子を置き湯茶の用意をし自由にくつろいでいただけるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅に近い状態になるよう家具の配置にも考慮している。家族の写真など飾りご本人が安心できるよう配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	トイレの掃除は臭い、汚れの状態です度行っている。温度調整は外気温との差が5度以内となるようこまめに行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて浴室の手摺りの設置など、安全確保と自立への配慮をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの混乱の原因を環境面に焦点をあて探るなど職員間で話し合いを行っているが、十分な理解、分析ができていない。	○	職員間で情報収集を行い、自立に向けた暮らしが出来るよう話し合う。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関横の花壇、ベランダの水遣りを日課としてお願いしており役割として定着してきている。収穫した野菜から話題が広がり会話を楽しめている。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらい
			③利用者の1/3くらい
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域への清掃活動等でのボランティア、小学生の帰宅の見守り隊などこちらから出掛けていく機会地域と関わる機会を増やしより馴染みの存在となるよう配慮している。近隣の散歩途中で頂も物をしたお宅に後日、ぼた餅を作った際に届けるなど細やかなお付き合いを心がけている。